キャラクター名
李徴

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ノイマン	ワークス	政治家	カヴァー	虎
オプショナル		年齢	不明	性別	男 / オス
覚醒	渇望	衝動	妄想	初期侵食率	31 %
出自		経験	発狂	邂逅	袁□（えんさん）

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	0	2			5
感覚	0	0	1			1
精神	3	0	0			3
社会	2	1	0			3

HP	33
行動値	5
(非装備時)	5
戦闘移動	10
全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ			交渉	2	
回避			知覚			意志	3		調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				
		0				
		0				
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

使用人	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：野獣本能	P	N		
袁□（えんさん）	P 尊敬	N 劣等感		
莉依住　イヴ	P 庇護	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：キュマイラ	3	2	メジャー					
効果：	クリティカル値を　-Ｉｖ?（下限7）							
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身			
効果：	肉体判定ダイスを ＋Ｉｖ+2（素手のみ）							
究極獣化	1	4d10	マイナー	至近	自身		120↑	
効果：	攻撃ダメージ +(lv)D，装甲値 +10							
獣の殺意	2	2	メジャー	武器		白兵		
効果：	エフェクトに対するドッジ判定ダイス -lv							
天性のひらめき	2	4	メジャー					
効果：	判定クリティカル値を　-Ｉｖ?（下限7）							
知性ある獣	1	2	マイナー	至近	自身			
効果：	完全獣化中の武器使用可							
破壊の爪	2	3	マイナー	至近	自身			
効果：	素手時　白兵、ガード値１：攻撃力+lv+8							
眠れる遺伝子	★		常時	至近	自身			
効果：	常時獣化							
至上の毛並み	★		常時	至近	自身			
効果：	見惚れるほどに美しい毛並							
獣の臭い	★		メジャー	視界	動物	交渉		
効果：	動物に対する交渉を有利にする							
効果：								
効果：								
効果：								

「その声は、我が友、李徴子ではないか？」
友の声がする。こんな姿になった私を友と呼んでくれる。こんなにうれしいことはない。……あぁ、だが私はいずれ身も心も虎のそれに変わり果てるだろう。友よ、私を友と呼んでくれる数少ない私の友よ。お前はこちら側に来てはいけない。残された妻子を頼む。さぁ、行け。早く。早く行くのだ。私が虎になってしまわぬうちに。私は、人として友と別れたいのだ。
……そうだ、それでよいのだ。さらばだ、友よ。私にお前のことを友と呼ぶとこが許されるなら、私は今日という日を忘れることはないだろう。我が信愛なる友よ、どうか私のことは忘れてくれ。もう、会うことはないのだから。

唐の時代、隴西の李徴はかつての郷里の秀才だった。しかし、片意地で自負心が強く、役人の身分に満足しきれなかった。彼は官職を辞し詩人として名を成そうとするも、うまく行かず、ついに挫折。小役人となって屈辱的な生活を強いられたが、その後、地方へ出張した際に発狂し、そのまま山へ消え、行方知れずとなった。

翌年、彼の数少ない旧友で高位の役人であった袁□（えんさん）は、先を急ぐとして、人食い虎の危険をもかえりみず、月が明るく残る未明に旅に立つが、その途中で虎に襲われる。しかし、その虎の正体は李徴であった。すすり泣きをした後、虎となった李徴は茂みに姿を隠したままいきさつを語る。「昨年、何者かの声に惹かれ、わけがわからぬまま山中に走りこみ、気がついたら虎になっていた。人間の意識に戻る時もあるが、次第に本当の虎として人や獣を襲い、食らう時間の方が長くなっている。」と。

李徴は更に語る。なぜ虎になったのか。自分は他人との交流を避けた。皆はそれを傲慢だと言ったが、実は臆病な自尊心と、尊大な羞恥心の為せる業だったのだ。本当は詩才がないかも知れないのを自ら認めるのを恐れ、そうかと言って、苦労して才を磨くことも嫌がった。それが心中の虎であり、ついに本当に虎になったのだ。